

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに人材育成その他の教育研究上の目的を設定していますか。また、その内容は適切ですか。	A
		(2)	大学の理念・目的と学部・研究科の目的に関連性がありますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法律学科、現代社会法学科ともに、それぞれの学科の特性を踏まえて、「人材の養成・教育研究上の目的」を適切に設定している。				
(2) 法律学科、現代社会法学科の「人材の養成・教育研究上の目的」はいずれも建学の精神に沿って設定している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
1-1法	法「人材の養成・教育研究上の目的」(法学部履修要項抜粋)			
1-1現社	現社「人材の養成・教育研究上の目的」(法学部履修要項抜粋)			
1-1法現	「人材の養成・教育研究上の目的」(ウェブサイト)			
点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。	(1)	学部・学科ごと、研究科又は専攻ごとに設定する人材育成その他の教育研究上の目的を適切に明示していますか。	A
		(2)	教職員、学生、社会に対する刊行物、ウェブサイト等により、大学の理念・目的、学部・研究科の目的等が周知及び公表されていますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1) 法律学科、現代社会法学科の人材の養成・教育研究上の目的を、愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程に明示している。				
(2) 法律学科、現代社会法学科の人材の養成・教育研究上の目的を、大学のウェブサイトおよび履修要項に掲載し、教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
1-1法現	「人材の養成・教育研究上の目的」(ウェブサイト)			
1-1法	「人材の養成・教育研究上の目的」(法学部履修要項抜粋)			
1-1現社	「人材の養成・教育研究上の目的」(法学部履修要項抜粋)			
1-2法現	「愛知学院大学人材の養成・教育研究上の目的に関する規程」			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画（既にも実施している場合はその進捗状況も含めて）を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準1」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。	(1)	学部・研究科その他の組織における定期的な点検・評価及び点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを計画的に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 法学部将来検討委員会が、これまでも、法学部自己点検・自己評価を行っていたが、全学の自己点検・自己評価規程の制定を受け、法学部自己点検・自己評価委員会内規を定め、この内規に基づき、学部の自己点検・自己評価を実施している。自己点検・評価に基づき、資格取得支援の充実、ゼミ選抜方法の改善を行い、現在は、カリキュラム改正に取り組んでいる。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
2-1法現	「法学部・研究科自己点検・自己評価委員会内規」			
2-2法現	「2019年度第4回法学部自己点検・自己評価委員会議事録」			

2. 長所・特色

点検・評価項目番号		長所・特色
なし		
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>		
根拠資料名		

3. 課題・問題点

点検・評価項目番号		課題・問題点
なし		
<p>理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>		

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準2」全体の自己評価

	自己評価
基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	A

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。	(1)	課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を適切に設定し公表していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)法律学科、現代社会法学科ともに、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、学士(法学)の学位にふさわしい学習成果を明示した学位授与方針を設定し、ウェブサイトと履修要項で公表している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
4-1法現	「ディプロマ・ポリシー」(ウェブサイト)			
4-1法	「ディプロマ・ポリシー」(法学部履修要項抜粋)			
4-1現社	「ディプロマ・ポリシー」(法学部履修要項抜粋)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1)	下記内容を備えた教育課程の編成・実施方針の設定及び公表をしていますか。 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等	A
		(2)	教育課程の編成・実施方針と学位授与方針には適切な関連性がありますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)教育課程の編成・実施方針を策定・公表し、その中で、学科の特性に合わせた教育課程の基本的な体系と内容および教育課程を構成する授業科目の区分を示している。教育課程の編成・実施方針は、大学ホームページ及び履修要項に掲載し、公表している。</p> <p>(2)教育課程の編成・実施方針に基づき編成されている教育課程を構成する各科目と学位授与方針に示された修得すべき知識、能力、資質は各科目の特性に応じて様々なレベルで適切に関連しており、その関連性をカリキュラムマップの作成によって明示している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
4-2法現	「カリキュラム・ポリシー」(ウェブサイト)			
4-2法	「カリキュラム・ポリシー」(法学部履修要項抜粋)			
4-2現社	「カリキュラム・ポリシー」(法学部履修要項抜粋)			
4-3法現	「カリキュラムマップ」(ウェブサイト・法学部履修要項抜粋)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)	教育課程の編成・実施方針と教育課程の整合性はとれていますか。	A
		(2)	教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。	A
		(3)	個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえていますか。	A
		(4)	各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 <学士課程> 初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 <修士課程、博士課程> コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等	A
		(5)	学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 教育課程は、教育課程の編成・実施方針に基づいて、編成・実施しており、整合性はとれている。</p> <p>(2) 教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮、授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切であり、教育課程を構成する科目区分間、授業科目間の関係性や履修順序(配当年次)をカリキュラムツリーとして明示することにより、適切性を明示している。</p> <p>(3) 教育課程の編成・実施方針を踏まえ、各教員が授業目標、内容、方法を定め、カリキュラムマップおよびシラバスで示しており、個々の授業科目の内容及び方法は、教育課程の編成・実施方針を踏まえている。個々の授業科目の内容及び方法が、CPを踏まえているかについては、毎年実施するシラバスチェックにより確認している。</p> <p>(4) 初年次に法学に関する入門科目を配置し、1年次の基礎演習において、高大接続を意識した授業を行っている。幅広い教養と法的素養をバランスよく身につけられるよう、教養科目36単位と専門教育科目76単位を卒業要件単位とすることにより、教養教育と専門教育を適切に配置している。</p> <p>(5) これまでも「キャリアデザインと法学」等、専門科目として、キャリア支援科目を設定していたが、いわゆるキャリア教育を拡充する目的でカリキュラムの見直しを行い、2020年度の新カリキュラムにおいて、新たに「キャリア教育科目」を新設し、これまでのキャリア支援科目の拡充を図ることとした。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
4-3法	「カリキュラム概要」(法学部履修要項抜粋)			
4-3現社	「カリキュラム概要」(法学部履修要項抜粋)			
4-4法	「カリキュラムツリー」(法学部履修要項抜粋)			
4-4現社	「カリキュラムツリー」(法学部履修要項抜粋)			
4-3法現	「カリキュラムマップ」(ウェブサイト・法学部履修要項抜粋)			
4-4法現	「シラバス」(ウェブサイト)			
4-A法現	法学部2020年度以降入学生カリキュラム概要(法学部履修要項抜粋)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)	単位の実質化を図るための措置(授業時間外に必要な学習の促進、学士課程においては履修登録単位数の上限設定等)を講じていますか。	A
		(2)	シラバスの内容(授業の目的、到達目標、学習成果の指標、授業内容及び方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法及び基準等の明示)は適切ですか。授業内容とシラバスとの整合性が確保されていますか。	A
		(3)	学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法などの措置を講じていますか。	A
		(4)	各学位課程に応じてその他の措置を講じていますか。 <学士課程> ・授業形態に配慮した1授業あたりの学生数、適切な履修指導の実施 <修士課程、博士課程> ・研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)シラバスにおいて、各授業科目の各回の予習・復習事項を明示し、授業時間外に必要な学習を促進している。年間履修登録単位数の上限を44単位に設定し、単位の実質化を図っている。</p> <p>(2)シラバスの相互チェックを制度的に実施し、シラバスの内容の適切性を担保している。授業アンケートで授業内容とシラバスの整合性を確認し、授業内容とシラバスの整合性を確保している。</p> <p>(3)授業アンケートで、「学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法」を問う設問を設け、「学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法」を促進している。学生の主体的参加を基本とする演習科目を1年次からすべての学年に設置している。</p> <p>(4)講義については、多くの履修が予想される講義は、あらかじめ複数の講義に分割し、学生数の適正化を図っている。演習は、あらかじめ受講人数を指定し、ゼミ委員会で受講者の振り分けを行い、受講人数を適正に保っている。また、履修相談会・オリエンテーション等での履修指導、成績不振者への個別面談・履修指導、オフィスアワーを設定・公表し、学生の相談に対応している</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
4-4法現	「シラバス」(ウェブサイト)			
4-5法現	「シラバス記載内容第三者チェックのお願い」			
4-6法現	「平成30年度秋学期 法学部 「学生による授業アンケート」集計表」			
4-3法	「カリキュラム概要」(法学部履修要項抜粋)			
4-3現社	「カリキュラム概要」(法学部履修要項抜粋)			
4-7法現	「2020年度 演習科目の選考・振分けについて」			

⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)	単位制度の趣旨に基づく単位認定を行っていますか。 また、既修得単位の適切な認定を行っていますか。	A
		(2)	成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置を講じていますか。	A
		(3)	卒業・修了要件を明示していますか。	A
		(4)	〈修士課程・博士課程〉 学位論文審査基準を明示していますか。	
		(5)	学位審査及び修了認定の客観性及び厳格性を確保するために どのような措置を講じていますか。 学位授与に係る責任体制及び手続は明示されていますか。	A
		(6)	適切に学位授与を行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 成績評価方法は、シラバスで明示されており(明示した成績評価方法は変更できない)、それに基づいて単位認定を行っている。既修得単位の認定は、「編入学者の単位認定に関する内規」等該当の規程に従って、適切に認定を行っている。</p> <p>(2) 全学の「単位認定及び成績評価に関するガイドライン」に従って厳格に成績評価を行っている。</p> <p>(3) 学則に明示し、ウェブサイトと履修要項で公開している。</p> <p>(4)</p> <p>(5) 学位授与に当たっては、教務課が作成した原案を法学部教授会で学則に基づき審議し、教務委員会の審議を経て、代表教授会の承認を得て授与される。このようにして、学位授与は、厳格性や客観性が担保されている。</p> <p>(6) 「愛知学院大学学位記授与に関する規程」に基づき、適切に学位授与を行っている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
4-4法現	「シラバス」(ウェブサイト)			
4-8法現	「編入学者の単位認定に関する内規」			
4-9法現	「単位認定及び成績評価に関するガイドライン」			
4-10法現	「平成30年度第13回法学部教授会議事録」			
4-11法現	「愛知学院大学学位記授与に関する規程」			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)	各学位課程の分野の特性に応じて、学位授与方針に示した学習成果を測定するための多角的で適切な指標設定を行っていますか。	B
		(2)	学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法を用いていますか。 ≪学習成果の測定方法例≫ ・アセスメント・テスト ・ルーブリックを活用した測定 ・学習成果の測定を目的とした学生調査 ・卒業生、就職先への意見聴取	B
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 法学部のアセスメント・プランを設定し、授業内におけるレポートや定期試験の結果に加え、「単位の修得状況」、「GPA」、「標準修業年限での卒業率」等を学習成果の視点の候補として検討し、自己点検・自己評価委員会において具体的な指標を模索している。 (2) 学習成果を把握及び評価するために適切な測定方法についても、自己点検・自己評価委員会において検討中である。				
[根拠資料] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-12法現	「2019年度第3回法学部自己点検・自己評価委員会資料」			
4-B法現	「2019年度第4回法学部自己点検・自己評価委員会資料」			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用	B
		(2)	点検・評価結果に基づき、改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	B
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 「単位の修得状況」、「GPA」、「標準修業年限での卒業率」等の客観的情報を、自己点検・自己評価委員会、教授会における教育課程の自己点検評価に活用している。ただし、学習成果の把握、評価のためのより適切な指標設定を模索している段階である。 (2) 「単位の修得状況」、「GPA」、「標準修業年限での卒業率」等に基づいた自己点検評価を自己点検・自己評価委員会において行い、カリキュラム改訂に活用している。				
[根拠資料] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
4-12法現	「2019年度第3回法学部自己点検・自己評価委員会資料」			
4-B法現	「2019年度第4回法学部自己点検・自己評価委員会資料」			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準4」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。	(1)	学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定し、公表していますか。	A
		(2)	下記内容を踏まえた学生の受け入れ方針を設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 法律学科、現代社会法学科ともに、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を踏まえた学生の受け入れ方針を適切に設定しウェブサイト等で公表している。</p> <p>(2) 入学前の学習歴、学力水準、能力等を踏まえた求める学生像を明示し、判定方法を踏まえた学生の受け入れ方針を設定している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
5-1法現	「アドミッション・ポリシー」(ウェブサイト)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)	学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定していますか。	A
		(2)	入試委員会等、責任所在を明確にした入学者選抜実施のための体制を適切に整備していますか。	A
		(3)	公正な入学者選抜を実施していますか。	A
		(4)	入学を希望する者への合理的な配慮に基づく公平な入学者選抜を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 学生の受け入れ方針に基づき学生募集方法及び入学者選抜制度を適切に設定している。</p> <p>(2) 愛知学院大学入学試験委員会規程に基づき、代表教授会の下に入学試験委員会を置き、入学試験委員会において入学者選抜を実施する体制を適切に整備している。入学者選抜の原案は、入試センターと協力し、学部入試委員が、責任をもって作成している。</p> <p>(3) 入試要項で明示された判定基準に基づき、公正な入学者選抜を実施している。</p> <p>(4) 障がいなどを理由として受験時に特別な配慮が必要な受験生については、事前に相談の機会を設け、適切な対応を行っている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
5-2法現	「入試要項」(ウェブサイト)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)	入学定員及び収容定員を適切に設定し、在籍学生数を管理していますか。 <学士課程> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰又は未充足に関する対応 <修士課程、博士課程、専門職学位課程> ・収容定員に対する在籍学生数比率	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 入学定員を変更する際には、教授会において慎重に検討し、入学定員及び収容定員を適切に設定している。在籍学生数については、経年の定員充足率を考慮し、適切に管理している。例えば、2019年度の入学定員に対する入学者数比率は103%であり、収容定員充足率は106.7%で適正な範囲である。				
[根拠資料] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
5-3法現	「愛知学院大学学生数情報」(ウェブサイト)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を行っていますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づき改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
[現状] 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。 (1) 法学部教授会において、学生の受け入れの適切性(入学定員及び収容定員の適切性等)について点検・評価を行っている。また、入試委員会においても学生の受け入れの適切性について点検・評価を行っている。 (2) 上記の点検・評価を基にして、教授会において、授業内容の検討を、各教員に促した。				
[根拠資料名] 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
5-4法現	2019年度 入試委員会議事録			
5-5法現	2019年度第8回法学部教授会議事録及び関連資料			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名	

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名	

5. 「基準5」全体の自己評価

基準全体の評価を、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2019年度(評価対象期間:2019年4月～2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
①	大学の理念・目的に基づき大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	(1)	◇新規項目 各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を適切に明示していますか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)法学部「教員組織の編制方針」を定め、教授会において教員組織のあり方を点検・評価している。				
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。				
根拠資料名				
6-X	法学部「教員組織の編制方針」			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)	大学全体及び学部・研究科等ごとの専任教員数は適切ですか。	A
		(2)	学部・研究科等ごとの専任教員数を適切に維持するため、計画的に募集・採用・昇任等を実施していますか。	B
		(3)	教員組織の編制に関する方針に基づき、適切に教員組織を編制していますか。 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員(教授、准教授、講師又は助教)の適正な配置 ・各学位課程の目的に即した教員配置(国際性、男女比等も含む) ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮 ・バランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置	B
		(4)	学士課程における教養教育の運営体制は適切ですか。	A
〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。				
(1)設置基準に基づく、教員数22名を上回る25名の専任教員数であり、適切である。				
(2)大学設置基準上必要な専任教員数を安定的に満たすため、計画的な募集・採用・昇任を実施している。				
(3)法学部では、学部の「教員組織の編制に関する方針」を定め、それに基づき、適切に教員組織を編成するよう努めており、おおむね、方針に基づいた教員組織となっているが、国際性、男女比の点においては、改善すべき点がある。				
(4)教養教育に関しては、法学部と連携しつつ、教養部が責任をもって運営する体制となっている。				
根拠資料名				
6-1法現	「教員組織・教員数」(ウェブサイト)			
6-2法現	「法学部・求める教員像及び教員組織の編制方針」			
4-3法	「カリキュラム概要」(法学部履修要項抜粋)			
4-3現社	「カリキュラム概要」(法学部履修要項抜粋)			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	(1)	教員の職位(教授、准教授、講師、助教等)ごとの募集、採用、昇任等に関する基準及び手続を設定し、規程を整備していますか。	A
		(2)	規程に沿った教員の募集、採用、昇任等を実施していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)「愛知学院大学教員資格選考基準」を踏まえ、「法学部の教員採用人事に関する規程」、「法学部の教員昇任人事に関する規程」を整備している。</p> <p>(2)上記の規程に沿って教員の募集、採用、昇任を実施している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
6-3法現	「愛知学院大学教員資格選考基準」			
6-4法現	「法学部の教員採用人事に関する規程」			
6-5法現	「法学部の教員昇任人事に関する規程」			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
④	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)	ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動を組織的に実施していますか。	A
		(2)	教員の教育活動、研究活動、社会活動等の評価を行い、結果を活用していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1)毎年、定期的に、法学部FD研究会、研究授業を行っている。</p> <p>(2)FD研究会の結果を基に、カリキュラム改訂の議論を法学部教授会で行っている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
6-6法現	「令和元年度全学FD活動報告書」			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
⑤	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 法学部教授会において、年齢構成や男女比に関する資料を配布し、点検・評価を行っている。</p> <p>(2) 点検・評価結果を採用人事の際の考慮要素としている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
6-7法現 「教員数・教員一人当たり学生数」(平成30年度第5回教授会資料)				

2. 長所・特色

<p>有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
点検・評価項目番号	長所・特色
なし	
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>	
根拠資料名	

3. 課題・問題点

<p>理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。</p>	
点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既の実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。	
点検・評価項目番号	改善策
なし	
〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。	
根拠資料名	

5. 「基準6」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A

2019年度(評価対象期間:2019年4月~2020年3月) 自己点検・評価シート

1. 現状説明

※自己評価は、「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、「C:重度な問題がある」いずれかを選択。

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
②	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)	学外組織との適切な連携体制を構築していますか。地域交流、国際交流事業への参加に取り組んでいますか。	A
		(2)	社会連携・社会貢献に関する活動による教育研究活動を推進していますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) 法学部同窓会によるOB講座、大和証券寄附講座の受け入れ等、学外組織との連携に取り組んでいる。</p> <p>(2) 全学の「社会連携・社会貢献に関する方針」に基づき、日進市との連携事業(日進市未来をつくる子ども条例普及啓発事業)を通して、社会連携・社会貢献に関する活動による法学の教育研究活動を行っている。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
9-1法現	「キャリアデザインと法学」(シラバス)			
9-2法現	「特殊講義証券市場論と法(大和証券寄附講座)」(シラバス)			
9-3法現	「愛知学院大学の各方針」(ウェブサイト)			
9-4法現	「学内理事決裁通知(日進市提案型大学連携協働事業 企画提案提出)」			

点検・評価項目		評価の視点		自己評価
③	社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)	適切な根拠(資料、情報)に基づく点検・評価を実施していますか。	A
		(2)	点検・評価結果に基づく改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	A
<p>〔現状〕 評価の視点ごとに、「いつ」、「主体(会議名・誰が)」、「どのように(方法・指標)」、「何を」実施しているか、など第三者が理解できるよう具体的に説明してください。</p> <p>(1) OB講座については、OB講座委員、執行部が同窓会と授業アンケート等を基に、毎年反省会を行っている。大和証券寄附講座については、商法教員で構成される商法ブロックが責任をもって次年度の授業内容を大和証券と協議している。日進市との連携事業に関しては、参加者、参加学生のアンケート等を実施している。</p> <p>(2) OB講座については、上記の反省会を通して、毎年、授業内容の吟味、担当講師の選定等、OB講座委員会において、授業の改善施策を検討し、教授会で審議・承認している。大和証券寄附講座については、商法ブロックと大和証券の担当者との間で、毎年、授業内容の協議し、授業改善を行っている。日進市との連携事業に関しては、参加者、参加学生のアンケート等をもとに報告書を作成、日進市に提出し、次年度の活動に活用している。</p>				
<p>〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。</p>				
根拠資料名				
9-5法現	「令和元年度キャリアデザインと法学」(冊子)			
9-6法現	「令和元年度提案型大学連携協働事業成果報告書(法学部)」			

2. 長所・特色

有意な成果が見られる事項、先駆性・独自性のある事項がある場合、目標として意図した成果が何であったかを明らかにしたうえで、実際にあがった成果が確認できる根拠を示しながら記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	長所・特色
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

3. 課題・問題点

理念・目的を実現する上での課題、基礎要件に関する問題、大学としてふさわしい水準を確保する上での問題がある場合、記述してください。特にない場合は「なし」としてください。

点検・評価項目番号	課題・問題点
なし	

4. 課題・問題点に対する改善策

「3. 課題・問題点」の事項の改善策がある場合は、その具体的な計画(既にも実施している場合はその進捗状況も含めて)を記述してください。

点検・評価項目番号	改善策
なし	

〔根拠資料〕 上記説明の根拠となる「議事録」・「印刷物」・「ホームページURL」・「組織内資料」等を記入してください。

根拠資料名

5. 「基準9」全体の自己評価

基準全体の評価を、 「S:極めて良好」、「A:良好」、「B:軽度な問題がある」、 「C:重度な問題がある」から選択してください。	自己評価
	A